

I. はじめに

本校が掲げる「キリスト教精神に基づいた、他者と共に生きる自立した市民としての人格形成」は、決して理念先行の標語ではなく、むしろ現代社会の困難さの中でこそ切実に問われる使命です。格差の拡大、人口減少と少子化は中期ビジョンさえ描けなく感じてしまいます。情報過多による混乱、違いを認め合い共生することが厳しくなる分断、民主主義の形骸化といった課題に直面する今、他者を排除せず、責任をもって判断し行動できる力が求められています。

本校は、知識や進路実績にとどまらず、隣人と共に生きる感性と公共性を育む場として、その使命を改めて自覚し、教育の実践を積み重ねていきます。

今までは個々の教職員の努力によって成立してきましたが、校内の組織が連携を意識していく必要性を感じます。

生徒募集は、所得制限なしの高校授業料無償化の追い風にも助けられ、定員は確保できそうです。

財政面では、施設整備費などの支出もあり、収支の均衡の目標値が後退しましたが、削減ばかりではなく、収入増を考えなければならない時期にあると考えています。



北星学園大学附属高等学校

校長 今城 慰作
IMAJO, Isaku

・2025 年度達成状況一覧

事業分野		◎ 達成	○ 達成への進行度 (高)	△ 達成への進行度 (低)	× 中止	計
重点施策		0	1	0	0	1
教学	I. 教科教育	1	7	3	0	11
	II. 生活指導	0	2	1	0	3
	III. 進路指導	3	0	0	0	3
経営・管理		3	3	0	0	6
財務		1	3	1	0	5
合計		8	16	5	0	29

※達成度：◎達成、○達成への進行度（高）、△達成への進行度（低）、×中止

II. 重点施策

1. 教学の観点では、本学の教育を深化させるために、各教員が国内の最新の技術を身につけ、学びを深め、社会のニーズを適切に把握し、時代の流れに流されない芯をもちつつ、実存する人間そのものを大切にする活動を展開することを目指します。

(1)	学校教育目標の理解を深めつつ、私学の魅力や特色のある教育を意識して取り組みます。	達成度	○
(2)	高大「連携」を更に強化していきます。		
(3)	クラブ活動、教育活動、特別活動の中で、個々の生徒を尊重し、全人的に理解するように努めます。		

教職員に対して、教育目標の理解を深めるために、より多くの発信が必要です。しかし、教員の個々の熱意により、生徒に対して魅力や特色は伝わり、新年度の生徒募集の数字に表れました。

高大「連携」の取り組みは、出張講義の利用、英検2次試験の学生アシスタント派遣依頼、オープンキャンパスなどは、継続して取り組んできました。新学部の積極的な情宣や大学主催の国際イベントへの参加など、引続き強化に取り組みます。

個々の生徒理解を深めるため、専門職（SSW・SC）を採用しました。また定期アンケートを通して、生徒集団の理解に努め、思春期の生徒たちの心の動きと言う以上に、社会情勢もあり課題は複雑、多岐、深刻化しているように思います。



▲附属高卒業生による指導の様子

III. 教学

I. 教科教育

1. 知識を得ることや学ぶことに能動的に取組み、自らの世界を広げることができるよう、授業や行事を計画する。

(1)	総合的な探究の時間の取組内容を時代の変化に合わせて策定し、主体的に取り組むことができる課題を提示します。総合研修旅行の学習を通して、平和や異文化理解についての研修に取り組みます。	達成度	○
-----	---	-----	---

探究の時間では、探究課題の設定方法を学び、グループで発表用のポスターを制作しポスターセッションを行いました。

研修旅行の事前学習では旅程の中から課題を設定し、研究内容をパワーポイントでまとめて発表し、旅行後も現地調査を同様にまとめて発表しました。

2. 学習の機会に他者の考え方や価値観に触れさせ、知識や視野を広げ（深め）る事で、人間性の成長を図る。対話による学習の機会を多く設け、周りの力も借りながら課題解決の力を養えるような指導力を身につける。

(2)	授業において各回に1回はペアワークやグループワークを取り入れ、生徒間で対話する時間を設けるような授業計画を立案します。	達成度	△
-----	---	-----	---

パフォーマンス課題は各教科課していますが、回数実施内容の把握には至りませんでした。

(3)	外部の各種研修会への参加者数増加を目指します。	達成度	△
-----	-------------------------	-----	---

外部研修会への参加件数は昨年度より増加したものの、同じ教員が参加している状況であり、実質的な参加者数の増加にはつながりませんでした。

4. 高校生活の間に、科学的・論理的な思考を深める事ができるように、3年間の学校生活の中であらゆる機会を通じて学ばせる。

(4)	理科の実験授業において生徒が実験結果をまとめ、考察できるようにワークシートを作成して取組ませます。	達成度	○
(5)	文章表現指導の際に、根拠に基づいた意見を述べられるように指導します。		

理科実験授業の回数を増やすよう、教科部会が課題意識をもってシラバス作成に臨みました。特に3年進学コース物理基礎における実験回数が増えました。

5. 発表の力を身に付けられるように、複数の教科で探究的な学習を行う。

(6)	各科目において授業内で課題解決型の授業展開を追求しながら、プレゼンテーションの場を設けます。	達成度	○
(7)	教科横断型の授業構築を追求します。		

探究の時間では、探究課題の設定方法を学び、グループで発表用のポスターを制作しポスターセッションを行いました。研修旅行の事前学習では旅程の中から課題を設定し、研究内容をパワーポイントでまとめて発表し、旅行後も現地調査を同様にまとめて発表しました。

(上記1(1)と同様)

6. 主体的・対話的で深い学びの実践を進める。

(8)	各科目でパフォーマンス課題の内容を精査し、課題に取り組ませる中で主体的・対話的な学びを進めていきます。	達成度	○
-----	---	-----	---

各教科部会でパフォーマンス課題に取り組みました。3年進学コースでは1月の登校期間をパフォーマンス課題に取り組む期間と位置づけ、実施しました。

7. ICTを活用し、知識・技能の定着を図りつつ、効率良く学習できる環境を整える。

(9)	各科目1回以上、タブレットPCを活用した授業を展開します。	達成度	○
-----	-------------------------------	-----	---

授業の資料共有やアンケートなどの際にタブレットPCを利用できました。

8. 思考力・表現力・判断力を身に着け、自立した自己を確立する。

(10)	理解したこと・できることを客観的に確認でき、新しい課題に自ら学ぼうとする姿勢を持てるような授業を展開します。	達成度	○
------	--	-----	---

定期試験に思考・表現・判断を問う設問をつくることをルール化して実施しました。

9. 多様性・協働性を意識し、他者や社会、世界とつながりを意識した課外活動を行う。

(11)	地域の奉仕活動として、サッカー・野球部以外のクラブ活動も主体的に参加できるように促します。	達成度	○
------	---	-----	---

キリスト教教育部から奉仕活動の呼びかけを定期的に行いました。

10. 変動する世界状況の中で、普遍的な真理（キリスト教精神に根差した人間観、倫理観など）を探究する。

(12)	聖書の授業、礼拝・アドベント・教会体験などのキリスト教行事における全体メッセージの策定と、それに伴うレポート課題の出題を計画します。	達成度	◎
------	--	-----	---

教会体験出席を1月、2月に設定し、1～3学年対象に行いました。クラブ等で日曜日の朝の礼拝に参加できない生徒のために、聖書科の非常勤講師が勤める教会で、夕礼拝を企画し、多くの生徒が集まりました。また、信心の理由で参加できない生徒には課題を出して対応しました。



▲クリスマス礼拝の様子

11. 上記項目の目標を達成するために、外部研修への参加推奨、オンライン講義の参加、講師を招いた研修会の開催などで教員のスキルを向上させる。

(13)	外部の各種研修会への参加者数増加を目指します。	達成度	△
------	-------------------------	-----	---

外部研修会への参加件数は昨年度より増加したものの、同じ教員が参加している状況であり、実質的な参加者数の増加にはつながりませんでした。（上記2（3）と同様）

II. 生活指導

1. 人は社会の中で育つという考えに基づき「集団づくりを中心に据えた教育」を理念とする実践構築のための具体的な仕組みを確立する。

(1)	HR活動の仲間づくり・人間関係作りに重点を置き、個を大切にしたHR運営方針と実践を追求します。	達成度	△
-----	---	-----	---

2024年度はソーシャルワーカーも入り、新しい視点からの取り組みによって、途中退学者が減少しましたが、2025年度には対応できずに方向転換したケースがあり、前年度比では途中退学者が増加となりました。

2. 他者理解と自己表現を養いながら、「人間性」「社会性」を育てるため、課外活動の活性化と指導体制を強化する。

(2)	クラブ活動においても実技指導以外の「人間性」「社会性」の確立を意識し、生徒主体の活動を進めます。	達成度	○
-----	--	-----	---

特別支援チームによる生徒アンケートを予定通り定期的の実施でき、アンケートの内容から生徒対応に入ることができたケースもありました。各クラブの生徒の満足度の経過が客観的に見られました。

3. 生活指導上の問題が起こる前に全教員で「未然に防ぐ」ことができる指導体制を構築する。

(3)	生徒の状況把握と、教員間での生徒の情報共有を進めます。	達成度	○
-----	-----------------------------	-----	---

定期アンケートを年間5回実施し、生徒の状況把握に努めました。アセスメントの報告シート教員間で共有することができました。

Ⅲ. 進路指導

1. 生徒自らが望む将来像に見合った進路選択ができるように、進路指導体制を強化する。

(1)	外部進学イベントへの参加を計画します。また、卒業生などを招いた進路講演を各学年で実施します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

9月に2年生がマイナビ主催の進路イベント「未来ビュー」に参加しました。また3月には、1, 2年生を対象として、卒業した3年生による進路講演を実施しました。

2. 大学生（学園内）との交流等も含めた高大連携事業の効果を検証し、取組みの強化を計りながら学内進学者を増やす。

(2)	北星学園大学ミニオープンキャンパスでの大学生との交流、英検対策として北星学園大学の学生にアシスタントの依頼、探究のプログラムに卒業生の参加を求めるなど、高大接続を強化します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

北星学園大学のミニ OC は7月に3年生、9月に1年生を対象に実施した。学生アシスタントを依頼した英検対策は3回実施しました。探究プログラムの卒業生アシスタントも例年通り実施することができました。また、探究プログラムにおけるプレゼン優秀者5名が、Hokusei Student Actionに参加しました。



▲英検対策の様子

3. 時代によって変化する大学入試制度を研究し、進学希望者の進路実現に向けて適切な情報提供ができる体制を確立する。

(3)	進路指導研究会等への参加と校内における情報共有を積極的に行います。	達成度	◎
-----	-----------------------------------	-----	---

進路指導研究会や大学入試対策説明会等の情報は、適宜対象となる教員、学年、分掌に提供しました。

IV. 経営・管理

I. 募集体制と広報

1. 目指す姿に掲げた「5つの教育を柱とするブランド力ある教育」を意識し、私立の独自性を活かした戦略的な「入試・広報」体制を確立する。

(1)	3回行う学校説明会に各回 300 名の中学生を迎えることができるような広報を展開します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

3回の学校公開説明会に向けて、学校HPや公式 Instagram など告知を行い、いずれの回も300名を超える参加者を集めることができました。



▲学校説明会の様子

2. 入学生のニーズ、在校生の満足度を把握し、募集体制と広報に活かせる体制を構築する。

(2)	定期的な生徒アンケート調査を継続的に行い、生徒の要望等を把握し、募集体制に反映させていきます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

入学者アンケートに基づいて、本校を希望した理由等を分析し、募集体制に反映することができました。

3. 学校説明会やクラブ見学会など募集にかかる取組みを学内で適切に計画し、強化する。

(3)	学校説明会・授業説明会の広報活動を見直し、参加者の増加を目指します。	達成度	◎
-----	------------------------------------	-----	---

学校公開説明会の内容について、回ごとにマイナーチェンジを行うなど、参加者のニーズに合わせて構成しました。あわせて、その内容を随時学校HPや公式 Instagram に掲載し、参加を希望する中学生や保護者に向けて発信することができました。

Ⅱ.働き方改革

1. D Xを推進し業務の効率化を目指す。

(1)	超過勤務時間を減少させ、休暇の取得率の増加を目指します。	達成度	○
-----	------------------------------	-----	---

職員室での超過勤務は完全下校時間を目安に減少させることができました。また、教員の事情に応じて休暇取得を促しました。

2.コンプライアンスを徹底できるような管理体制を構築する。

(2)	課題を周知しやすい分掌・学年体制、会議体制等の組織全体の改変を進めます。	達成度	○
-----	--------------------------------------	-----	---

I C Tの活用によって、情報の共有に努めました。事前資料配布によって会議時間の短縮を図るなど、体制内での情報共有はスムーズになりました。

Ⅲ.採用計画

1.計画的な採用と適正な人員配置を実現できる体制を構築する。

(1)	年齢構成と専任数を意識した人事採用を進めます。	達成度	○
-----	-------------------------	-----	---

将来的にも持続可能な人員配置となるように、平均年齢が 40～45 歳になるように意識的に採用を行っています。

V. 財務

I.財務運営方針

1. 2030 年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	学校収入の柱である学生生徒納付金について転退学者数を抑え、中期財政計画の数値の達成を目指します。	達成度	○
-----	--	-----	---

2025 年度は転出者 6 名、退学者 2 名となり、転退学者 4 名以内という目標は達成できませんでしたが、2022 年度の転出者 17 名、退学者 3 名という数字からは改善が進んでいるため、目標を達成すべく生活指導の対応を今後も継続していきます。

2.奨学生を適正値におさめ入学生を安定的に確保することで、適正な収支バランスを作り出す。

(2)	生徒募集と奨学金支出のバランスの取れた奨学金制度の構築を行います。 また現制度内においても、奨学金Cの強化指定クラブの給付対象者数の管理を行い、適正な収支バランスを目指していきます。	達成度	○
-----	--	-----	---

奨学金Cの給付対象者についてはスカウティング状況を適宜確認し数的管理を行うことができました。2025 年度においては、新入生以外は既存制度の対象であるため抜本的な制度構築はできなかったものの、2026 年度の授業料無償化を踏まえた奨学金制度の構築を行うことはできました。

3. スクールバス事業にかかる効果測定と検証を行ったうえで運行目的を明確化し、この事業において適正な収支バランスを作り出す。

(3)	ドライバー不足などの外部要因を踏まえ、運行コース内におけるルートの再検討を行い、キロ数の削減による支出減などの検討を行います。	達成度	△
-----	---	-----	---

スクールバス事業に係る検討は進めていたものの、具体的なルートの再検討にまで踏み込むことはできませんでした。キロ数の削減についても、ルート変更に伴うものであるため検討することができませんでした。

4. 新施設の建築や整備の設置・修繕等を念頭にした中長期的な財政計画を立案する。

(4)	情報収集等できる範囲で検討を進める。	達成度	◎
-----	--------------------	-----	---

暖房施設や電話交換機など学校の運営基盤となるインフラ施設についての情報収集を進めることができました。特に老朽化が進んでいる運動関係施設（野球場等）の情報収集を進めることができました。

5. 設定した寄付額を達成できるような募集体制を構築し、寄付を推進する。

(5)	寄付の活用状況を発信し、同窓生、特に同窓会活動への積極的参加が少ない附属高校化以降の卒業生ネットワークの構築を目指し、継続的な寄付を依頼できる基盤を整えます。	達成度	○
-----	---	-----	---

附属高校化以降の同窓生のネットワーク構築のため、既存団体の同窓会、後援会、教育を語り支える会の合同再編成のための原案構築を進めました。2026年度に再編成後の団体が活動を開始し、それに伴い寄付を依頼できる基盤が整うことを見込んでいます。

II. 施設・設備

1. キリスト教教育を象徴する講堂（多目的礼拝堂）を建設する。

2. スクール・ミッションを体現できる施設（教室、交流スペース、図書館、体育施設など）の設計を行う。

3. 上記は、財政運営目標を達成した際に現実化に向けて検討を始める。

(1)	財政運営目標を可及的早期に達成する。	達成度	△
-----	--------------------	-----	---

財政運営目標を達成することはできませんでしたが、経費削減、生徒募集の強化による学生生徒納付金の増をさらに目指します。

以 上